Yachiyo-city
Tokyo Bay
CHIBA Pre.
たから
財やちよ
No. 4
2018. 10. 19
（平成 30 年）

八千代市文化財通信
財市文化代

八千代市文化財指定記念号
～石造二十三夜・日記念仏塔～

平成３０年９月６日。八千代市に新たな指定文化財が加わりました。新しい指定文化財は、萱田にある長福寺の境内にあります。その姿は三重塔状に屋根を重ねた石造の層塔で、刻まれた銘文から江戸時代の寛文９（1669）年に建立されました。二十三夜講と日記念仏講の満願成就を記念した供養塔として建立されたことから「石造二十三夜・日記念仏塔（層塔）」として指定されました。

萱田山観音院長福寺

「石造二十三夜・日記念仏塔（層塔）」の所在する萱田山観音院長福寺は真言宗豊山派の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。寺伝によれば創建は長享元年（1487）年。火災により一度焼失しましたが、元和二年（1616 年）に再建されたといわれています。朱色の山門から「萱田の赤寺」として親しまれており、境内には吉橋大師講の札所や、八千代八福神の一つ寿老人も所在しています。また、市指定文化財である飯綱神社の「参道石段58級」の天保３(1832)年の石段標には、別當(当)長福寺の名がみられ、神仏混淆の時代であった江戸時代には、飯綱神社の別当寺（神社の管理を行う寺）を務めるなど、地域の歴史と深く結びついていることがわかります。

石造二十三夜・日記念仏塔（層塔）

二十三夜講並びに日記念仏講の満願成就に当たり寛文９年に建立された供養塔です。簡素ながら大振りで力強い造りは、この時期の特徴をよく表しています。

二十三夜塔は、月待講の一つ二十三夜講の供養塔で、市内では約 60 基が確認されています。月待講とは、特定の月齢の夜に集まり経等を唱え、月を拝む講で、市内では、十九夜講の供養塔が多く見られます。市内の二十三夜塔の初出は、吉橋字尾崎にある寛文８(1668)年のもので、当塔はこれの次に古いものです。

日記念仏塔は、オニッキ等と呼ばれる月毎に特定の日を決めて行う念仏講で造塔されるものです。しかし、市内では造塔の例は少なく、初出は吉橋の寛文８(1668)年のもので、当塔はこれの次に古いものです。

通常、講毎に供養塔を建立することから、二つの講が合同で供養塔を建てる珍しい例であり、念仏塔としても二十三夜塔としても早い時期に建てられたものです。また、現在のところ千葉県内において、同様の型式の供養塔は知られておらず、江戸時代初めの当地における信仰の様子を知る上で重要な資料です。

1　名　称　石造二十三夜・日記念仏塔（層塔）

2　員　数　１基

3　所在地　萱田 1427（萱田山長福寺境内）

4　所有者　宗教法人長福寺

5　種　類　民俗文化財（有形）

6　形状・材質・寸法　形　状：三重塔状に笠を重ねた層塔で，最上部は後補と考えられ，一回り小さい笠と，別材と思われる宝珠部を乗せる。
笠部は各層とも四隅に陵を作り出す反り屋根状で，軒裏に垂木が刻出されている。

基　礎　正面台形，上面前方の隅に円形の窪みあり

初　層　正面に方形龕（仏像等を納めるための四角い掘りこみ）あり，右側面　月形刳抜き　人名（女性）あり，
左側面　日形刳抜き　人名（男性）有り，裏面銘文・人名有り

第２層　正面　勢至菩薩坐像半肉彫り，左右側面銘文有り

第３層　四面無地

材　質：安山岩製

寸　法：総　　高　2380㎜

基　　礎　高さ 440㎜　幅：上端 520㎜　下端 620㎜

初　　層　高さ 390㎜　幅 420㎜

方　形　龕　高さ 250㎜　幅 300㎜　奥行 300㎜

初層笠部　屋根状を為し，軒先をそり上げる。軒裏部分には垂木が刻出される。
高さ 230㎜　最大幅 630㎜

第　２　層　高さ 340㎜　幅 370㎜

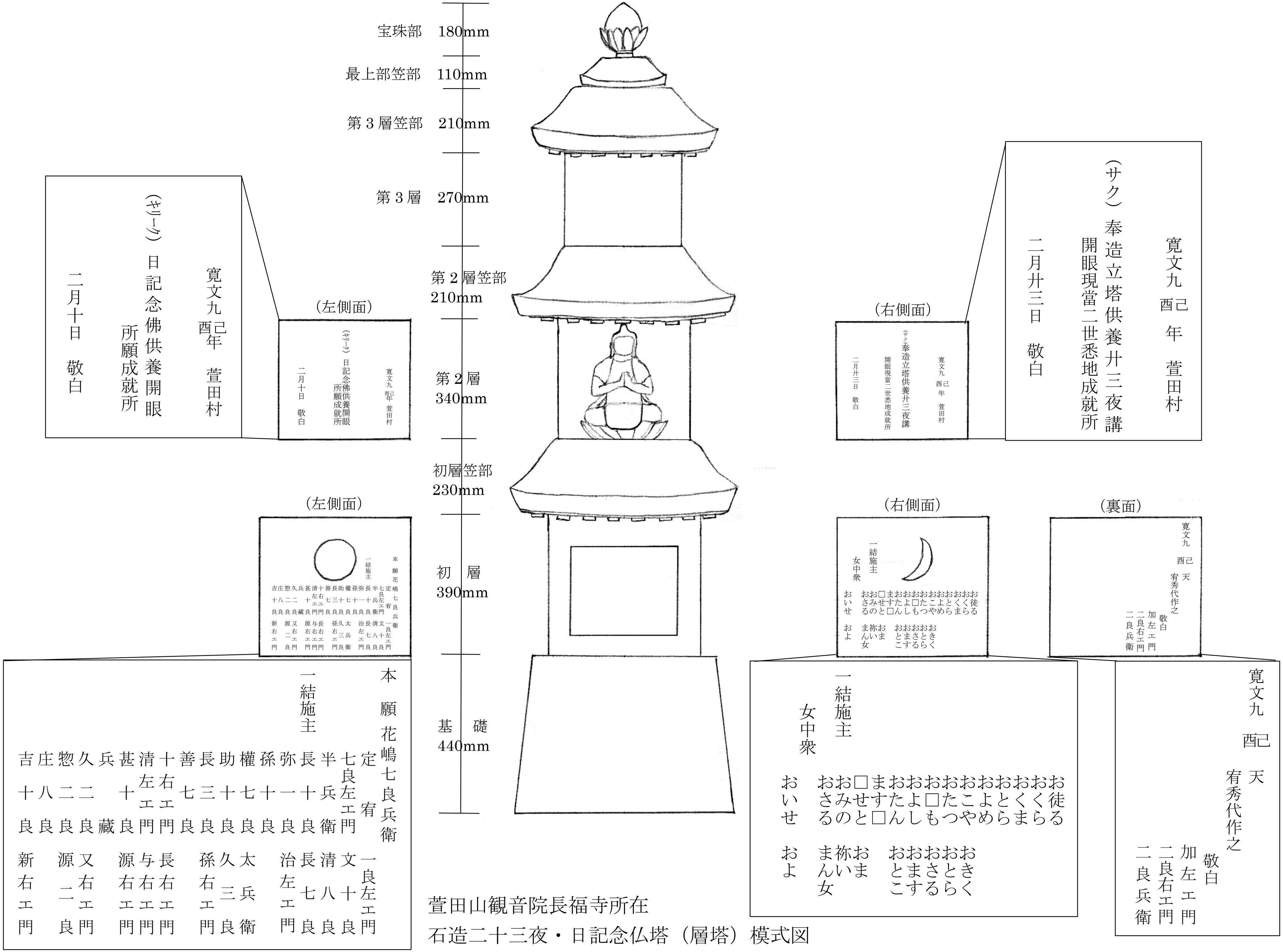
第２層笠部　形状は第１層笠部と同じ。　高さ 210㎜　最大幅 625㎜

第　３　層　高さ 270㎜　幅 330㎜

第３層笠部　第１層と同じ形状の笠部の上に笠及び宝珠が載る。　高さ 210㎜　最大幅 525㎜

最上部笠部　他の笠部同様屋根状を為し，軒先を反り上げる形状だが，軒裏の表現については不明である。
高さ 110㎜　最大幅 233㎜

最上部宝珠部　高さ 180㎜　最大幅 170㎜



萱田山観音院長福寺所在
石造二十三夜・日記念仏塔（層塔）模式図

八千代市ホームページからカラー版「財やちよ」の閲覧・ダウンロードができます

編集・発行：八千代市教育委員会教育総務課文化財班
〒276-0045 八千代市大和田 138－2
電話 047(481)0304